

資料名 金錯銘鉄剣

よみがな きんさくめいてっけん

時 代 古墳時代

大きさ 長さ73.5cm

出土場所 行田市 稻荷山古墳

指定区分 国宝

解 説 稲荷山古墳から出土した鉄剣で、1983年に国宝に指定されました。

剣身に文章の書き出しがある表面 57 文字、裏面 58 文字の計 115 文字の銘文が金象嵌きんぞうがん(彫った溝に金を埋め込む技)で刻まれています。

(参考:さきたま史跡の博物館 HP)

※さきたま史跡の博物館のホームページでは、3次元モデルの表示をさせることができます。

[金錯銘鉄剣 - 埼玉県立さきたま史跡の博物館](#)

資料名 稲荷山古墳

よみがな いなりやまこふん

時 代 古墳時代

大きさ 直径120m

出土場所 行田市

解 説 埼玉古墳群で最も古く、最も北に位置する前方後円墳です。
前方部は消失していましたが、発掘調査を基とした整備(1997年～)
により、当時に近い形を見ることができます。

(参考:さきたま史跡の博物館 HP)

資料名 丸墓山古墳

よみがな まるはかやまこふん

時 代 古墳時代

大きさ 直径105m

出土場所 行田市

解 説 日本最大級の円墳です。

登ることができ、上から埼玉古墳群を眺めることができます。

(参考:さきたま史跡の博物館 HP)

資料名 円筒埴輪

よみがな えんとうはにわ

時 代 古墳時代

大きさ 高さ約35cm

出土場所 嵐山町 ^{ふるさと}古墳群駒込支郡

解 説 比企丘陵の北東にある古墳群から出土しました。
円筒埴輪は、古墳の崩れ防止や死者の魂が安らかであるように作られたと考えられています。
円筒埴輪の他に、どのような形の埴輪が古墳時代にはあったのでしょうか。

(参考:埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書416集)

資料名 武人埴輪

よみがな ぶじんはにわ

時 代 古墳時代

大きさ 高さ約65cm 盾の長さ約38cm

出土場所 坂戸市 塚の越遺跡

解 説 人物の頭部が大きく作られ、円筒埴輪の全面に、方形の粘土板を張りつけ、盾が表現されています。目はやや幅広に、口は薄く三日月形に切り抜かれ、薄笑いの表情です。笑顔は、悪いものが入って来ないようにするとされ、盾を持った人物埴輪によくみられる特徴のひとつです。

(参考:埋文さいたま65号)

資料名 鳥形埴輪

よみがな とりがたはにわ

時 代 古墳時代

大きさ 高さ約36cm

出土場所 東松山市 下道添遺跡

解 説 丸い体と大きな目があり、鳥の姿を素朴に表した埴輪です。
鳥の形の他に、どのような動物の形をした埴輪があったのか調べてみましょう。

(参考:埋文さいたま57号)

下のリンクから、「埋文さいたま57号」に行くことができます。

[埋文さいたま | 埼玉県埋蔵文化財調査事業団](#)

資料名 まが玉

よみがな まがたま

時 代 古墳時代

大きさ 長さ4cm

出土場所 行田市 埼玉稲荷山古墳

指定区分 国宝

解 説 このまが玉は稲荷山古墳から発見されたもので、ヒスイでできています。金錯銘鉄剣と同様1983年に国宝に指定されました。

古墳時代の中頃には、まが玉は鏡と同様、持つ人の地位や力を象徴する道具として取り扱われるようになります。後期になると豪族が身に付ける道具として量産され、頭と尾が角ばる「コ」の字に近い勾玉が流行します。

(参考:埋文さいたま 66号)

資料名 子持勾玉

よみがな こもちまがたま

時 代 古墳時代

大きさ 長さ約12cm

出土場所 行田市 北大竹遺跡

解 説 大型のまが玉の側面や背・腹に小さな突起をつくりだしたものをいいます。古墳時代の5世紀中頃に出現し、7世紀後半まで出土例があります。突起の数や形はさまざまで、省略化が進むと突起は失われていきます。子持勾玉は突起を付けることで玉のもつ力をより強めようとしたものと考えられています。

(参考:埋文さいたま 66号)

資料名 画文帯環状乳神獣鏡

よみがな がもんたいかんじょうにゆうしんじゅうきょう

時 代 古墳時代

大きさ 長さ約15cm

出土場所 行田市 稻荷山古墳

指定区分 国宝

解 説 稲荷山古墳から出土した副葬品で、金錯銘鉄剣と同様、1983年に国宝に指定されました。

外側には月と太陽や雲、内側には不思議な力を持つと考えられていた動物や昔の中国の人が考えた、修行をして特別な力を身に付け不老不死になった人の文様が表現される銅製の鏡です。

同じ文様の鏡は群馬県高崎市八幡観音塚古墳など、全国で6面が知られています。

(参考:さきたま史跡の博物館 HP)